

テーマ「光と色」

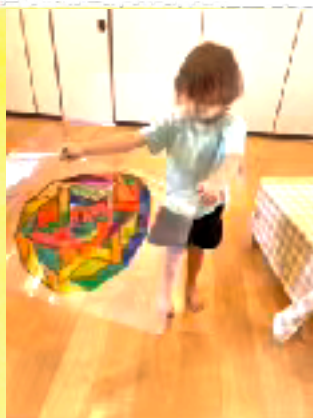
普段の遊びの中で光や色の不思議に気づく姿やライトテーブルで遊ぶ姿があります。そのような姿から、見える角度や視点、素材などを変える事により、また新たな発見があったり、光と色への興味関心がさらに深まることのできるのではないかと考えました。

〈春の姿〉



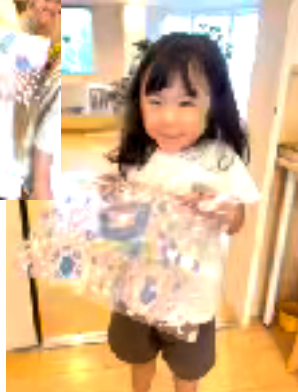
窓から差し込んでくる太陽光に気づき、壁にうつる光を見つけたり、子ども自身が光を感じる姿が見られました。

ライトテーブルでアクリル積み木や色水、花などに光を通し、どのように見えるのかを感じていました。



ラミネートをした透明の用紙にマンダラ塗り絵を書き写し、ステンドグラスのように光を通して地面にマンダラの模様が映るのを発見すると、「マンダラ塗り絵のテントを作って、床に模様が綺麗に映る中でご飯を食べたい!」と話をしたり、沢山マンダラの塗り絵をした子の姿を見て、「マンダラパーティーをしたらどう?」「マンダラのランプやマンダラシートも作ってみたい!」と子どもたちから声があがり、マンダラ塗り絵が盛り上がっていきました。

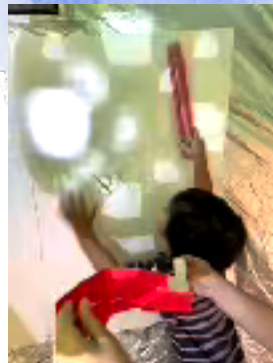
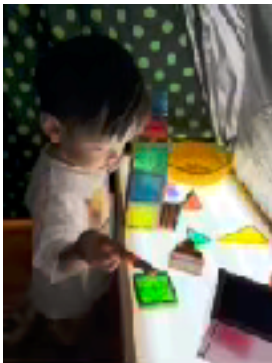
〈夏の姿〉



マンダラパーティーに向けて、決まっている絵柄だけでなく、子どもたちが考えた模様を描く姿も見られました。

↑

マンダラの飾り方も工夫し、無事にマンダラのテントが完成しました。テントの中でおやつを食べることができ、とても嬉しそうでした。

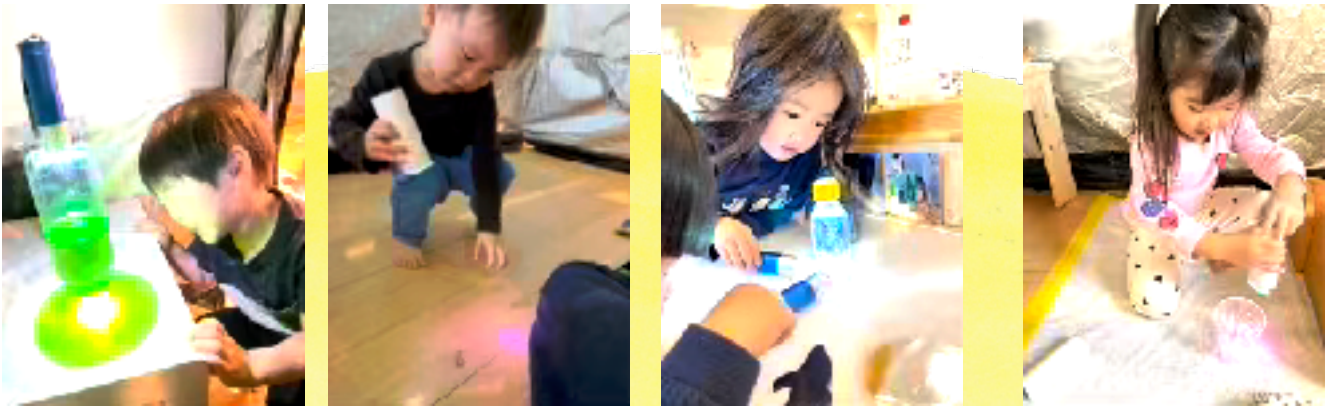


引き続き、ライトテーブルを使って光の見え方、鏡を置いてみての見え方を色々と試していました。



0歳児では、絵の具の感触、色が混ざる様子を、指先で感じる子や全身で楽しむ子の姿が見られ、一人ひとり感じ方、楽しみ方が違っていました。

〈秋の姿〉



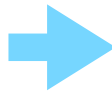
ライトテーブルでは下からの光を使い、様々な光の見え方を試していましたが、今度は手持ちライトを使って色々な角度からの光の見え方を試すようになりました。ライトにカラーセロハンやオーロラシートを付け、光の広がり方、色の濃さなどを興味津々に見る子どもたちでした。

〈ココロ・フィラーレでの姿〉

「色と光のミュージアム」というテーマで、「ダイクロイック・偏光板」「色の不思議」「鏡の部屋」の3コーナーを設け、子どもたちが体験できるようにしました。

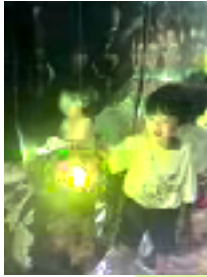
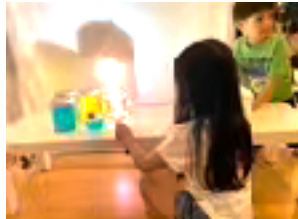
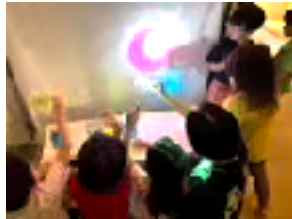
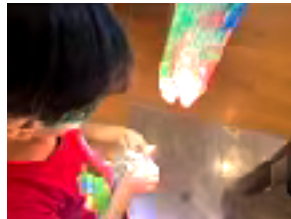


ダイクロイックや偏光板を見ると、「色がザワザワしてる!」「花火みたい!」「光が反射してるんだよ!」などと口々に子どもたちから感想が出てきました。

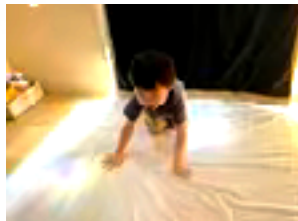
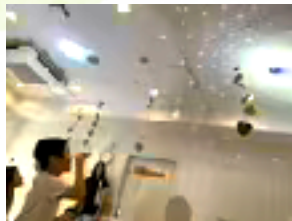
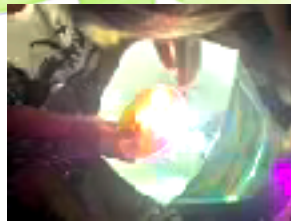


どんな風に見えるかな？

カラーシートによる色の劇場を見た子どもたちは、赤色のカラーシートの後ろに隠れていた、ひまわりが出てくると「なんて可憐なひまわりなの！」と色の不思議に驚いていました。



鏡の部屋では、鏡のテントの中で自分や友だちの顔を見比べたり、ライトを片手に色水、マンダラ、サンキャッチャーに光を当てて、反射の様子や壁に映った光をじっと見たり、床に映る光を捕まえようとする姿が見られ、子どもたちは夢中になって体験していました。



〈冬の姿〉



お花屋さん



深海をイメージ



アクリル積み木を4つ重ねて、カメラのように顔の前に持つと、友だちの顔が不思議な見え方になることに気づきました。その姿を見て、他の子も一緒にやり始めて楽しんでいました。

【振り返り】

1年を通して、光と色への興味、関心が各学年で見られました。

環境設定として、ライトテーブル、照明、鏡、透明の素材、ガラスフィルム、カラーセロハン、絵の具などを用意したことで、様々な経験をすることができました。その中で、子どもたちは光の当て方によって光の大きさや長さを視覚的に知ることができたり、色の組み合わせによって見え方が違うことを経験したりと、より光と色の面白さを感じ、探究心が深まったと思います。

子どもたちの“やってみたい”を一緒に探求することで、大人では思いつかない発想が見られ、子どもに寄り添って保育をする大切さを改めて感じました。